

## 令和3年度第1回神川町総合教育会議議事録

開催日時：令和3年4月27日(木) 午後3時50分～午後4時25分

開催場所：神川町役場2階第1会議室

### 出席者(構成員)

神川町長	山崎正弘
教育委員会教育長	福嶋慶治
同 教育長職務代理	西村 享
教育委員会 委員	中島とも代
同 委員	川野順也
同 委員	渡邊孝広

### 事務局及び関係部署

総合政策課 課長	宮 穂高
生涯学習課 課長	福嶋 晃
学務課 課長	堀口 二三夫
同 指導主事	高田 真清
同 指導主事	黒田 清子
同 課長補佐	須藤 早苗
同 主任	田村 充
同 主任	設楽 悟史

1 開会 15:50～ 堀口課長

2 あいさつ 町長

コロナ感染予防ワクチン接種について厚労省から「高齢者については7月までに接種終了させてほしい」と電話があった。

常に町と教育委員会がタイアップし、良い教育を目指して行きましょう。

3 報告事項

(1)GIGA スクール構想における ICT 環境整備について 設楽主任

資料1を使用し、報告。資料に記載されている整備はすべて終了。

(2)神川町立小学校適正規模等検討委員会について 田村主任

資料2を使用し、報告。それぞれの重要点を報告。

1 はじめに

全国的な傾向と同様に、神川町においても人口減や少子高齢化等の影響により

児童数の減少が続いている。

当委員会は、小学校適正規模等について、神川町の10年後、20年後を見据え、様々な視点から検討を進めてきた。

## 2 (1) 適正規模の視点

学習指導要領で想定された学習内容が、効果的に指導できるかということも収容視点となる。学習指導要領の求める「主体的・対話的で深い学び」は、集団活動とおして行われるものである

## (2) 適正入りの視点

通学距離による時間

## (3) 学校が地域において果たす役割の視点

地域のコミュニケーションの核としての性格を有することが多く、防災、地域交流の場等、様々な性格を持っている。

## (4) 校舎・施設の耐久年数の視点

4小学校校舎は40年以上経過し、経年劣化や改修を必要とする箇所も多く、老朽化は深刻な状況

限られた予算で対策

改修だけでなく、改築を含めての計画的な対策の検討が必要

## (5) 維持管理費等の経費の視点

児童数にかかわらず、一定の経費が必要。

光熱水費、施設管理委託料、備品購入費

## 3 答申について

二つの案

① 将来は小学校を1校とするが当面は2校

② 4つの小学校を残す

## 4 答申の理由・根拠について

### (1) 将来は小学校を1校とするが当面は2校について

多くの考え方や意見に触れられることができ、学習指導要領のねらいにあった授業を展開することができる。

お互いが切磋匠、子どもたちの一層の成長が期待できる。

将来は1校が望ましいといえるが、現状の施設を活用して早急に複式学級を解消するためにはまず2校をすることが適切

### (2) 4つの小学校を残すについて

学校の運営経費の節減や、地域の人たちの学校滋養等への協力が必要

報告事項についての質問

(町長) GIGAについてどうなっているか？

(担当) ネットワーク、LANを丹荘小、青柳小、神川中を現在調査中です。

## 4 その他

事務局からは特になし。

(教育長より)いじめ、自殺から始まった、この総合教育会議、町を教育委員会が手を結び、  
情報を共有していくのが始まりでした。

5 閉会 堀口課長

終了。